

## 台湾の通信市場概要

株式会社クララオンライン  
コンサルティングチーム

### <要約と結論>

台湾の通信市場は、インターネット、携帯電話、固定電話共に日本と変わらない水準で普及しており、なかでも携帯電話の普及率は人口比 100%を超えている。国家通信伝播委員会のまとめによれば、2013年5月末時点のブロードバンド契約件数は約670万件で、その4割ほどが高速なFTTxとなっているほか、モバイルブロードバンドも約1800万件の契約があり、99%が3G方式となっている。台湾政府はクラウド産業の発展にも注力しており、特に強化する10分野について巨額の投資を行う意向を明らかにしている。

また携帯電話について現在は2G、3G及びPHSのサービスが提供されているが、2Gは2017年にサービスが終了する見通しとなっている。3Gは大手3社と中堅2社の計5社がサービスを提供しており、契約数は2300万件を超える。台北市や台中市などの大都市は、概ね下り21Mbps(理論値)の3Gネットワークでカバーされている状況だ。なお台湾でも日本と同様の料金後払い契約が一般的で、数十もの様々な料金プランが用意されている。また台湾を訪れる外国人も使いやすいプリペイド契約もあり、空港で簡単に申し込むことができる。一方の固定電話は1996年に自由化がスタートしているが、現在も中華電信のシェアが90%を超えており、携帯電話の普及に伴って年々契約数が減る傾向にある。

台湾ではまだ4G通信サービスが始まっていない。7月1日に事業免許の競争入札の募集が締め切られたばかりで、入札結果が発表されるのは11月になる予定だ。今回応札したのは大手通信キャリア3社を含む計7社で、ライセンスの発行枚数はまだ明らかでないが、実際に商用サービスが始まるのは2014年になるとみられる。台湾は携帯電話の普及率が高く、無料の公衆無線LANが広く定着していることもあり、4Gへの切り替えが進む2~3年後には高速大容量でリアルタイム性が要求されるコンテンツを中心に大きな市場が生まれると期待される。また4Gの展開で日本や韓国に3年以上の遅れをとったことから、政府関係者は次の第5世代通信規格(5G)について、関係する技術開発を積極的に進める意向を明らかにしている。



## 1. 台湾の通信市場を知る

### (1) インターネット

2013年5月末時点で、台湾の固定ブロードバンド(BB)サービスの加入件数は672万5086件で、普及率は約24%に上る。このうちADSLが171万391件、FTTxが276万9112件、ケーブルモデムが110万6731件、PWLANが110万9505件などとなっている。一方、モバイルブロードバンドの契約数は1787万6265件で、このうち3G方式が全体の99%余りとなる1725万307件、WBA(WiMAX)方式が13万4418件となっている。WiMAXは2007年7月にライセンスが交付され、現在は6社(大同電信、全球一動、遠伝電信、大衆電信、威邁思、威達雲瑞電信)がサービスを提供している。

2013年3月末時点のドメイン名の総計は66万8544件で、前年の62万4516件から4万4028件増加した。またIPv4アドレスは3540万192件で、前年よりプラス6144件、IPv6アドレスは2338件で同プラス2件だった。

行政院は2010年4月に「クラウド産業発展方案」を発表し、5年間で240億台湾ドル(約840億円)の財政支出を行う方針を示した。その後2012年9月に「クラウドサービスと産業発展方案」を発表し、10分野(警察、食品、健康、環境、農業、交通、図書資料、防災、教育、文化)のクラウドサービスを促進させるため、さらに70億台湾ドル(約240億円)を拠出する意向を明らかにしている。

### (2) モバイル

2013年7月現在、2Gと3G、およびPHSが利用されている。このうち2Gサービスは、2017年6月に周波数が回収される予定で、それにともない強制的にサービスが終了する見通しとなっている。また4Gサービスは2014年にもスタートすると聞かれるが、具体的な時期は定かではない。

2013年5月末時点で、2G契約件数は536万3927件、3G契約数は2336万2990件、PHS契約件数は75万466件となっている。2Gサービスを提供するのは、中華電信(Chunghwa Telecom)、台湾大哥大(Taiwan Telecom)、遠伝電信(Far Eas Tone)の三大通信キャリアで、シェアはそれぞれ60%、20%、20%ほどだ。

一方の3Gサービスは三大キャリアに加えて、亞太電信(Asia Pacific Telecom)、威宝電

信(Vibo Telecom)もサービスを提供している。なお PHS は、大衆電信(First International Telecom)が 1 社でサービスを提供している。2013 年 5 月末時点の各社の契約数等は以下の通り（国家通説伝播委員会発表）。

3Gサービス提供キャリア	中華電信	台湾大哥大	遠伝電信	亜太電信	威宝電信
契約件数(件)	7,147,203	6,004,125	5,934,149	2,559,772	1,717,741
マーケットシェア	30.6%	25.7%	25.4%	11.0%	7.3%
1-5月の累計通話量(分)	3,914,709,645	3,037,678,221	396,323,318	2,557,633,946	871,905,351
1-5月の累計通話料金(台湾ドル)	26,293,573,000	20,836,056,000	23,237,026,000	7,495,144,000	2,990,198,000

### (3) 固定電話

元々は国営の中華電信が 1 社で市場を独占していたが 1996 年から自由化がスタートした。現在は中華電信のほか、台湾大哥大系列の台湾固網、遠伝電信系列の世紀資通、亜太電信の 4 社体制となっているが、中華電信のシェアが 90%を超えている。2013 年 5 月時点の契約件数は 1234 万 1368 件で、年々減少する傾向にある。なお全国の公衆電話の設置数は 7 万 6953 台となっている。

## 2. 台湾の通信費用・・・中華電信の例

### (1) インターネット

#### 【光回線】

(1 台湾ドルは 3.0~3.5 円)

最高通信速度 (上り/下り bps)	回線使用料 (台湾ドル/月)	プロバイダ使用料 (台湾ドル/月)	合計利用料 (台湾ドル/月)
6M/2M	358	341	699
12M/3M	420	399	819
20M/5M	466	413	879
60M/15M	520	459	979
100M/20M	589	510	1099
100M/40M	623	576	1199
100M/100M	675	624	1299

下り速度が 2M から 100M まで 7 つのプランが用意されており、月額合計利用料金

は日本円にして約 2400~4500 円と日本よりわずかに安い。なお初期費用として、接続費 1500 台湾ドル(約 5000 円)、設定費 200 台湾ドル(約 700 円)が必要となる。

### 【ADSL】

最高通信速度 (上り/下り bps)	回線使用料 (台湾ドル/月)	プロバイダ使用料 (台湾ドル/月)	合計利用料 (台湾ドル/月)
2M/64K	125	121	246
4M/128K	204	299	503
5M/384K	230	329	559
8M/640K	365	389	754

下り速度が 64K から 640K まで 4 つのプランが用意されており、月額合計利用料金は日本円にして約 850~2600 円となっている。また契約年数に応じて回線使用料金の割引があり、2 年目から 5%、3 年目から 10%、5 年目から 13%、7 年目以降は 15% が毎月割引される。さらに半年分または 1 年分の料金を前払いした場合、回線使用料がそれぞれ 4% と 8% 割引される。なお ADSL の場合も、初期費用として接続費 1500 台湾ドル(約 5000 円)、設定費 200 台湾ドル(約 700 円)が必要となる。

### (2) モバイル

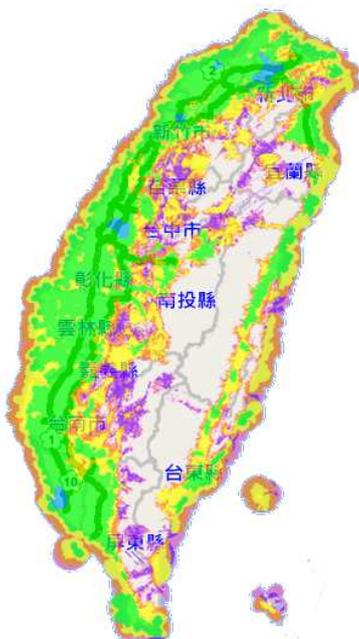
プラン	2G								
	超值128型	88型	188型	288型	588型	988型	1688型	経済型	基本型
月額料金 (台湾ドル)	88	88	188	288	588	988	1688	200	600
無料通話	128台湾ドル	月額料金と同額						無し	
音声通話 (台湾ドル/秒)	23時から5時 0.01 その他 0.08	0.1	0.08	0.08	0.07	0.06	0.05	0.08	0.05
		1時から5時 0.01							
SMS (台湾ドル/件)	1.1287								

2G はこの基本プランのほかにも長距離電話を多く利用する人にお得なプラン、無料通話や SMS の無料送信回数の多いプランなど様々なプランがある。通話料金は、深夜時間帯で特に安く設定されているが、昼間の料金は 3G とほぼ変わらない。

プラン	3G									
	183型	383型	583型	983型	1683型	289型	589型	989型	1789型	
月額料金 (台湾ドル)	183	383	583	983	1683	289	589	989	1789	
無料通信	月額料金と同額					38分	122分	290分	602分	
音声通話 (台湾ドル/秒)	0.08	0.07	0.06	0.04	0.03	0.0626	0.0547	0.0469	0.0391	
SMS (台湾ドル/件)	1.1287									
パケット通信 (台湾ドル/パケット)	50万パケット以下	0.005	0.0025	0.0013	0.0006	0.0003	0.0025	0.0013	0.0006	0.0003
	50-100万パケット	0.0025	0.0013	0.0006	0.0003	0.00016	0.0013	0.0006	0.0003	0.00016
	100万パケット以上	0.0013	0.0006	0.0003	0.00016	0.00008	0.0006	0.0003	0.00016	0.00008

3G は通話料金が 2G に比べいくぶん安く設定されており、月額料金と同額の無料通信のあるプランのほか、音声通話の多い人向けに無料通話分がついているプランもある。

またこのほか、2G・3G とともにプリペイドタイプの契約もある。月額料金はかからず、音声通話はいずれも 1 秒あたり 0.09 台湾ドル、SMS は 1 件 1.4803 台湾ドルとなっている。通話料金のチャージは直営店の窓口はもちろん、コンビニで購入できるプリペイドカードで簡単に行うことができる。



中華電信の 2G 及び 3G のサービスエリアは左図の通りとなっている。

台北市や台中市といった大都市では 3G で下り 21Mbps(理論値)、その他の都市部では下り 3.6~7.2Mbps(理論値)のネットワークでカバーされている。東側に縦に伸びる空白のエリアは標高 3000 米を超える山々が連なる山脈で、山裾に沿って 2G サービスがカバーしていることがわかる。

下載服務速率 (理論最高值)	
	3G 訊號優良 (21Mbps 訊號涵蓋範圍)
	3G 訊號優良 (7.2Mbps 訊號涵蓋範圍)
	3G 訊號普通 (3.6Mbps 訊號涵蓋範圍)
	3G 訊號尚可 (384kbps 訊號涵蓋範圍)
	2G 訊號優良
	2G 訊號尚可

### 3. 出張や旅行者にやさしい台湾のモバイル環境

台北市内にはいたるところに通信キャリアのショップや代理店がある。新規契約の際は中華民国国民身分証（外国人の長期滞在者であれば居留証）に加えてパスポートや運転免許証などもう1つ身分証を用意する必要がある。



中華電信と台湾大哥大のショップ オリジナル端末も展示されている

私たちが旅行や出張で訪台する場合は、桃園国際空港や松山空港にある各通信キャリアのカウンターで手続きすれば、パスポートのみでプリペイドタイプの SIM カードを手に入れることができる。3G 契約の場合、まずデータ通信(無制限)の利用期間を選ぶことになり、中華電信の場合は 1 日間：100 台湾ドル、3 日間 250 台湾ドル、7 日間：450 台湾ドルのプランがある。例えば 3 日間の利用で最初に 300 台湾ドルをチャージすると、この中からデータ通信分の 250 台湾ドルが引かれ、通話に 50 台湾ドル使えるわけだ。台湾大哥大にはほかに 5 日間、10 日間、25 日間といったプランもあり、通話料込みの価格が設定されている（取材当時）。



また、滞在中にちょっとインターネットで検索できれば便利だな、という程度であれば、台湾政府が運営する無料 WiFi サービスを利用する手もある。台北市内の主要な建物や捷運(MRT)駅には、「台北 Free」や「iTaiwan」という無料の WiFi 接続ポイントが用意されており、空港の観光案内所(旅遊服務中心)でパスポートを見せればすぐにアカウントを作ることができる（パスポート番号が ID、誕生日がパスワードになっている）。

さらに台湾ではホテルやレストランはもちろん、小さな食堂にもアカウント不要の無料 WiFi が用意されていることが多く、ロックのかかっていないいわゆる“野良 WiFi”もたくさん飛んでいるため、市内でインターネットが利用できずに困ることはまずない。



松山空港の旅遊服務中心



このステッカーが目印



駅には無料の充電用コンセントがある



あちこちにある WiFi スポット

#### 4. 4G サービスは 2014 年にスタートか

スマートフォンを持つ人が増え、4G サービスのスタートが待たれる台湾だが、商用サービスが始まるのは 2014 年になりそうだ。国家通訊傳播委員会(NCC) による 4G の事業免許の競争入札の募集は 7 月 1 日に締め切られたばかりで、今後は 8 月 15 日までに応募資格の審査結果を公表し、9 月 3 日より競争入札を実施、11 月に落札者が発表となる予定だ。

今回応札したのは、中華電信、台湾大哥大、遠伝電信、亞太電信の通信キャリア 4 社に加え、鴻海集団の国基電子(Ambit Microsystems)、新合成纖維傘下の新建、台湾之星移動電信の計 7 社で、各社は 100 億台湾ドル(約 350 億円)以上で入札すると予想される。発行されるライセンス数は明らかでないが、NCC の関係者は「世界をみても 1 国



内で4G事業者が3社を超えるケースはない」と発言し、業界に提携を呼び掛けている。また法的には落札後に会社を売却することもできるため、通信業界の再編が起こるとの見方もでてい

台湾は2007年にWIMAXのライセンスを発行し、3Gの後継規格として相当の投資を行ってきた。しかし世界ではLTEが4G規格の主流となっており、対応端末や関連設備の調達を考えると台湾にとってLTE導入はやむを得ない判断だったようだ。業界では「初期選択を誤ったために、日本に4年以上、韓国に3年以上の遅れをとった」との声も上がっており、行政院の科技政策委員からは、同じ失敗を繰り返さないよう次の第5世代通信規格(5G)に向けた技術開発に早急に着手するよう呼びかけがあった。

日本や韓国では4Gサービスの普及に伴って、スマートフォンやタブレット向けの新しいサービスが続々と誕生している。台湾はモバイル普及率が高く、無料の公衆無線LANが広く定着しているというペースがあることから、4Gへの切り替えが進む2~3年後には、映画・ドラマの定額視聴サービスやオンラインゲームといった高速大容量でリアルタイム性が要求されるサービスの新たな市場として注目を集めそうだ。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は2013年7月19日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776